

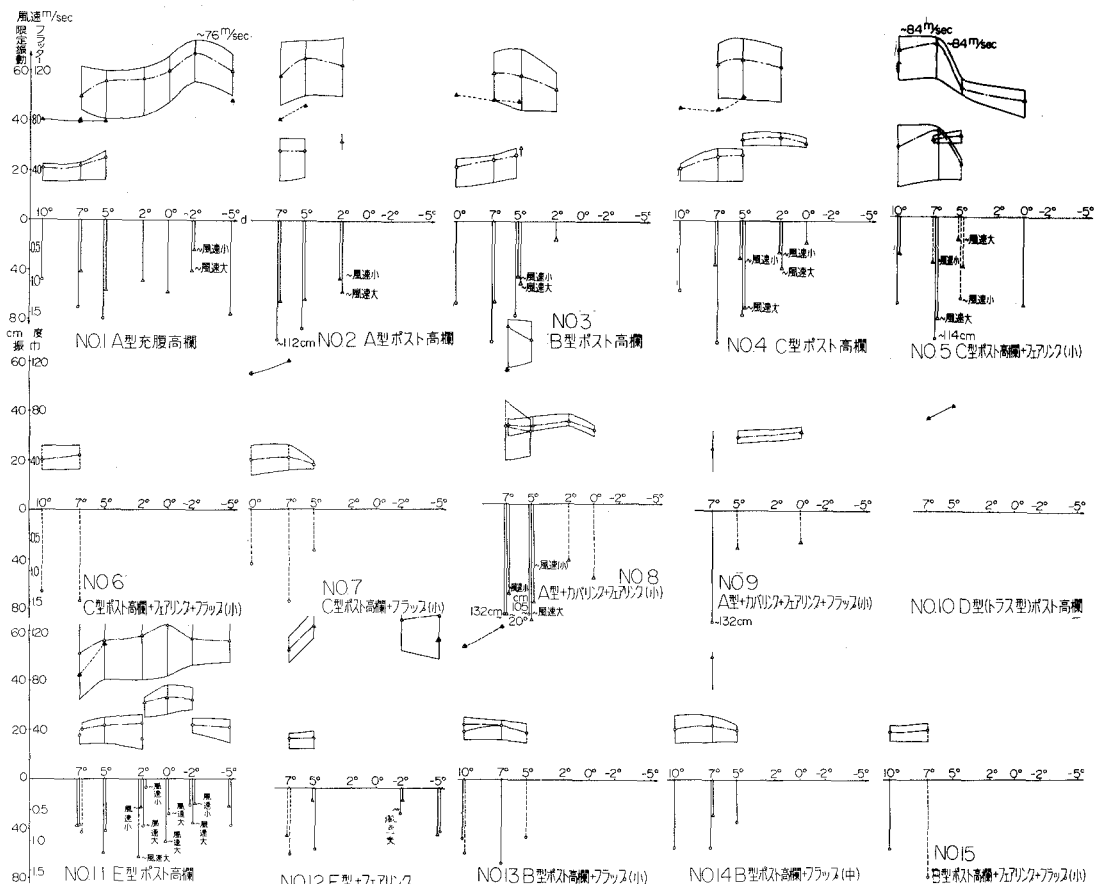


図-4 パネ支持試験結果

○: 曲げ 限定振動 ●: 曲げのフラッター —: カバ振なし
△: 振り 限定振動 ▲: 振りのフラッター ---: カバ振後

3. 結論

本実験から判断すると次の事がいえる。

- (1) A, B, C 型のポスト高欄は正の迎角で風琴振動をおこし、負の迎角では発生しない。三者の耐風安定性は、殆んど同じである。
- (2) A, B, C 型ポスト高欄に小さなフェアリングをつけても防振効果が小さい。
- (3) フラップは防振効果が大きい。ただ現状のフラップでは三分力特性に効果があまり表れていないので、取付位置、形状に改善の余地があるかもしれない。また充腹高欄はフラップによる安定性の改良が出来ないので不適当と思われる。
- (4) B 型と C 型では耐風安定性は殆んど同じである。付属物をつけた場合でも同様に両者の差異はない。
- (5) 完全箱型は最も安定が悪いが、フェアリングをつけると防振効果が大きい。
- (6) A 型にカバリングをつけても効果がない。
- (7) トラス型は床組を主構に合成させる等して振動性状を変えないとフラッターが発生するおそれがある。
- (8) B 型ポスト高欄にフラップとフェアリングを取りつけた断面が耐風性の面で一つの有力な候補と考えられる。

4. あとがき

今回は比較的大きな正の迎角まで対象にして実験を行なった。今後、引き続いて安定断面を求める実験を変動風による応答も含めて計画している。最後に本実験を行なった三菱重工業ならびにその指導にあたった大阪湾岸線技術委員会の関係各位に深く謝意を表する。